2027年３月期　第２四半期（中間期）決算短信〔日本基準〕（連結）

2026年11月12日

上場会社名　　株式会社jig.jp　　上場取引所　東
コード番号　　5244　　ＵＲＬ　https://www.jig.jp/
代表者　　（役職名）代表取締役社長CEO　　（氏名）川股　将
問合せ先責任者　（役職名）取締役CFO　　（氏名）田中　雄一郎　　ＴＥＬ　03-6824-9561
半期報告書提出予定日　　2026年11月12日　　配当支払開始予定日　－
決算補足説明資料作成の有無：有
決算説明会開催の有無　　：有（機関投資家・アナリスト向け）

（百万円未満切捨て）

１．2027年３月期第２四半期（中間期）の連結業績（2026年４月１日～2026年９月30日）

（１）連結経営成績（累計）　　（%表示は、対前年中間期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する中間純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2027年３月期中間期	8,625	17.2	1,027	△4.4	950	△3.8	535	△15.2
2026年３月期中間期	7,359	10.3	1,075	△1.7	987	△3.1	630	23.8

（注）包括利益　2027年３月期中間期　535百万円（△15.2%）　2026年３月期中間期　630百万円（23.8%）

	１株当たり中間純利益	潜在株式調整後１株当たり中間純利益
	円 銭	円 銭
2027年３月期中間期	12.97	－
2026年３月期中間期	15.09	－

（２）連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2027年３月期中間期	11,648	5,453	46.8
2026年３月期	7,506	5,024	66.9

（参考）自己資本　2027年３月期中間期　5,452百万円　2026年３月期　5,024百万円

２．配当の状況

	年間配当金				
	第１四半期末	第２四半期末	第３四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2026年３月期	－	0.00	－	2.93	2.93
2027年３月期	－	0.00			
2027年３月期（予想）			－	2.93	2.93

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

３．2027年３月期の連結業績予想（2026年４月１日～2027年３月31日）

（%表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		１株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	16,500	12.8	1,980	0.2	1,830	0.4	1,160	0.4	28.15

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※　注記事項

（１）当中間期における連結範囲の重要な変更：有

新規　1社　（社名）株式会社Miris

（２）中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

（３）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

①　会計基準等の改正に伴う会計方針の変更　：有

②　①以外の会計方針の変更　：無

③　会計上の見積りの変更　：無

④　修正再表示　：無

（４）発行済株式数（普通株式）

①　期末発行済株式数（自己株式を含む）	2027年３月期中間期	42,568,400株	2026年３月期	42,568,400株
②　期末自己株式数	2027年３月期中間期	1,291,700株	2026年３月期	1,360,200株
③　期中平均株式数（中間期）	2027年３月期中間期	41,258,314株	2026年３月期中間期	41,786,906株

※　第２四半期（中間期）決算短信は公認会計士又は監査法人のレビューの対象外です

※　業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料における将来の見通しに関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいております。その判断や仮定に内在する不確実性及び事業運営や内外の状況変化により、実際に生じる結果が予測内容とは実質的に異なる可能性があり、当社は将来予測に関するいかなる内容についても、その確実性を保証するものではありません。

○添付資料の目次

１．当中間決算に関する定性的情報 …… 2
（１）経営成績に関する説明 …… 2
（２）財政状態に関する説明 …… 2
（３）キャッシュフローに関する説明 …… 3
（４）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 …… 3
２．中間連結財務諸表及び主な注記 …… 4
（１）中間連結貸借対照表 …… 4
（２）中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書 …… 6
（３）中間連結キャッシュ・フロー計算書 …… 8
（４）中間連結財務諸表に関する注記事項 …… 9
（継続企業の前提に関する注記） …… 9
（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記） …… 9
（会計方針の変更に関する注記） …… 9
（表示方法の変更に関する注記） …… 9
（企業結合等に関する注記） …… 10
（セグメント情報等の注記） …… 11

１．当中間決算に関する定性的情報

（１）経営成績に関する説明

当中間連結会計期間における我が国経済は、雇用・所得環境の改善やインバウンド需要の拡大等を背景として、緩やかな回復基調で推移しました。一方で、継続的な物価上昇とそれに伴う個人消費の停滞感や、不安定な国際情勢等、国内外の景気の先行きは不透明な状況が続いています。

そのような状況の中、当社グループが主に事業展開を行うスマートフォン関連市場においては、2026年４月の内閣府『令和８年３月実施調査結果：消費動向調査』の報告によりますと、2026年３月末の国内スマートフォン世帯普及率は93.5%と高い水準を維持しております。

また、当社がターゲットとする動画投稿・ライブ配信市場は新規利用者の増加や既存利用者による複数サービス併用による利用機会増加を受けて市場規模の成長が継続する中、新たに参入する企業や競合各社における積極的な広告宣伝販促活動、配信ユーザーの囲い込み等が継続し、競争は引き続き激化しております。

このような事業環境のもと、当社グループにおいては、ライブ配信事業の「ふわっち」が前事業年度に引き続き、新たなアイテムや機能の提供等を通じてユーザーへの利便性や満足度を高めつつ、ユーザーエンゲージメントを高めることを企図したサービス内での新たなイベントの開催等を通じてユーザーを飽きさせない施策を定期的に実施しました。加えて、獲得効率を意識した効果的な広告宣伝活動を行いました。

加えて、新規事業の更なる展開や株式会社Miris（旧株式会社バチェラーデート）の全株式を取得しました。

以上の結果、当中間連結会計期間の経営成績は、売上高8,625,864千円（前年同期比17.2%増加）、営業利益1,027,818千円（前年同期比4.4%減少）、経常利益950,569千円（前年同期比3.8%減少）、親会社株主に帰属する中間純利益535,148千円（前年同期比15.2%減少）となりました。

セグメント別の経営成績は、次のとおりであります。

（ライブ配信事業）

ライブ配信事業においては、株式会社A Inc.が運営するライブ配信サービス「ふわっち」を展開しました。この結果、売上高は7,079,805千円（前年同期比0.5%減少）、セグメント利益は1,040,543千円（前年同期比8.7%増加）となりました。

（マッチングサービス事業）

マッチングサービス事業においては、株式会社Mirisが運営するマッチングサービス等を展開しました。この結果、売上高は1,019,225千円、セグメント利益は239,043千円となりました。

なお、各セグメントの売上高は外部顧客への売上高を記載しております。

（２）財政状態に関する説明

資産、負債及び資本の状況

（資産）

当中間連結会計期間末の資産合計は11,648,528千円となり、前連結会計年度末より4,141,681千円の増加となりました。これは主に、現金及び預金の増加556,076千円、売掛金の増加161,967千円、有形固定資産の増加553,790千円、無形固定資産の増加2,760,146千円、敷金保証金の増加34,363千円及び繰延税金資産の増加66,988千円によるものであります。

（負債）

当中間連結会計期間末の負債合計は6,194,954千円となり、前連結会計年度末より3,712,885千円の増加となりました。これは主に、未払金の増加230,068千円、未払法人税等の増加150,764千円、未払消費税等の減少13,956千円、ポイント引当金の増加45,442千円及び長期借入金の増加3,239,308千円によるものであります。

（純資産）

当中間連結会計期間末の純資産合計は5,453,574千円となり、前連結会計年度末より428,796千円の増加となりました。これは主に、親会社株主に帰属する中間純利益の計上535,148千円、配当金の支払による120,740千円の支出、自己株式の取得による減少80,894千円、譲渡制限付株式報酬としての自己株式の処分による自己株式の減少140,773千円及び資本剰余金の減少43,234千円によるものであります。この結果、自己資本比率は46.81%となり、前連結会計年度末の66.94%に比べ、20.13ポイント減少いたしました。

（３）キャッシュ・フローに関する説明

当中間連結会計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、前連結会計年度末と比べ556,076千円増加し、5,405,806千円となりました。

当中間連結会計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は、次のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動により得られた資金は、901,656千円（前中間連結会計期間は638,649千円の収入）となりました。主な増加要因は、税金等調整前中間純利益の計上950,569千円、減価償却費の計上23,917千円、のれん償却額の計上123,191千円、株式報酬費用の計上48,752千円、ポイント引当金の増加41,986千円及び未払金の増加105,728千円によるものであります。主な減少要因は、売上債権の増加91,491千円、棚卸資産の増加18,179千円、未払消費税等の減少30,308千円、預り金の減少485千円及び法人税等の支払額365,982千円によるものであります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動により使用した資金は、3,384,368千円（前中間連結会計期間は71,044千円の支出）となりました。これは主に、連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出2,763,746千円、投資有価証券の取得による支出10,000千円、出資金の払込による支出5,500千円、有形固定資産の取得による支出571,217千円及び差入保証金の差入による支出33,904千円によるものであります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動により得られた資金は、3,038,873千円（前中間連結会計期間は179,679千円の支出）となりました。これは主に、長期借入金の返済による支出240,692千円、長期借入れによる収入3,480,000千円、自己株式の取得による支出80,894千円及び配当金の支払額120,740千円によるものであります。

（４）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2027年３月期の業績予想については、2026年５月14日に開示した連結業績予想から変更はありません。

２．中間連結財務諸表及び主な注記

（１）中間連結貸借対照表

（単位：千円）

	前連結会計年度 (2026年３月31日)	当中間連結会計期間 (2026年９月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	4,849,729	5,405,806
売掛金	1,100,641	1,262,609
前渡金	253,580	188,341
その他	98,521	163,600
流動資産合計	6,302,473	7,020,357
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	449,536	510,590
工具、器具及び備品（純額）	56,732	64,219
土地	76,853	76,853
建設仮勘定	39,247	524,497
有形固定資産合計	622,370	1,176,160
無形固定資産		
商標権	6,363	5,997
ソフトウエア	26,584	20,599
のれん	22,303	2,788,802
無形固定資産合計	55,251	2,815,398
投資その他の資産		
投資有価証券	60,884	63,104
出資金	－	5,500
敷金保証金	189,319	223,682
繰延税金資産	275,470	342,459
その他	1,078	1,865
投資その他の資産合計	526,752	636,611
固定資産合計	1,204,374	4,628,171
資産合計	7,506,847	11,648,528

（単位：千円）

	前連結会計年度 (2026年３月31日)	当中間連結会計期間 (2026年９月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	359	327
１年内返済予定の長期借入金	67,104	67,104
未払金	1,251,627	1,481,696
未払法人税等	298,211	448,976
未払消費税等	116,683	102,727
ポイント引当金	379,265	424,708
その他	125,785	187,075
流動負債合計	2,239,037	2,712,614
固定負債		
長期借入金	213,032	3,452,340
預り保証金	30,000	30,000
固定負債合計	243,032	3,482,340
負債合計	2,482,069	6,194,954
純資産の部		
株主資本		
資本金	961,631	961,631
資本剰余金	969,436	926,201
利益剰余金	3,458,851	3,869,803
自己株式	△365,141	△305,262
株主資本合計	5,024,778	5,452,374
新株予約権	―	1,200
純資産合計	5,024,778	5,453,574
負債純資産合計	7,506,847	11,648,528

（２）中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書

中間連結損益計算書

（単位：千円）

	前中間連結会計期間 （自　2025年４月１日 至　2025年９月30日）	当中間連結会計期間 （自　2026年４月１日 至　2026年９月30日）
売上高	7,359,301	8,625,864
売上原価	458,617	725,760
売上総利益	6,900,683	7,900,104
販売費及び一般管理費	5,825,354	6,872,286
営業利益	1,075,328	1,027,818
営業外収益		
受取利息	4,123	8,256
講演料	420	629
ポイント還元収入	107	659
業務受託料	371	116
その他	407	848
営業外収益合計	5,431	10,511
営業外費用		
支払利息	1,137	24,724
固定資産除却損	15,943	5,242
支払手数料	379	171
為替差損	4,002	857
株式報酬費用	71,334	48,752
消費税差額等	－	104
その他	188	7,907
営業外費用合計	92,986	87,760
経常利益	987,773	950,569
税金等調整前中間純利益	987,773	950,569
法人税、住民税及び事業税	329,336	478,786
法人税等調整額	27,612	△63,366
法人税等合計	356,949	415,420
中間純利益	630,823	535,148
親会社株主に帰属する中間純利益	630,823	535,148

中間連結包括利益計算書

（単位：千円）

	前中間連結会計期間 （自　2025年４月１日 至　2025年９月30日）	当中間連結会計期間 （自　2026年４月１日 至　2026年９月30日）
中間純利益	630,823	535,148
中間包括利益	630,823	535,148
（内訳）		
親会社株主に係る中間包括利益	630,823	535,148

（３）中間連結キャッシュ・フロー計算書

（単位：千円）

	前中間連結会計期間 （自　2025年４月１日 至　2025年９月30日）	当中間連結会計期間 （自　2026年４月１日 至　2026年９月30日）
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前中間純利益	987,773	950,569
減価償却費	23,040	23,917
のれん償却額	2,787	123,191
株式報酬費用	71,334	48,752
ポイント引当金の増減額（△は減少）	△30,060	41,986
受取利息	△4,123	△8,256
支払利息	1,137	24,724
固定資産除却損	15,943	5,242
売上債権の増減額（△は増加）	57,772	△91,491
棚卸資産の増減額（△は増加）	10	△18,179
仕入債務の増減額（△は減少）	△58	△31
未払金の増減額（△は減少）	71,557	105,728
未払消費税等の増減額（△は減少）	△48,171	△30,308
預り金の増減額（△は減少）	1,396	△485
預り保証金の増減額（△は減少）	△30,000	－
その他	△37,242	108,746
小計	1,083,098	1,284,107
利息の受取額	4,123	8,256
利息の支払額	△1,137	△24,724
法人税等の支払額	△447,435	△365,982
営業活動によるキャッシュ・フロー	638,649	901,656
投資活動によるキャッシュ・フロー		
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	△23,417	△2,763,746
投資有価証券の取得による支出	－	△10,000
出資金の払込による支出	－	△5,500
有形固定資産の取得による支出	△47,627	△571,217
差入保証金の差入による支出	－	△33,904
投資活動によるキャッシュ・フロー	△71,044	△3,384,368
財務活動によるキャッシュ・フロー		
長期借入金の返済による支出	△33,552	△240,692
長期借入れによる収入	－	3,480,000
自己株式の取得による支出	△38,205	△80,894
配当金の支払額	△107,921	△120,740
新株予約権の発行による収入	－	1,200
財務活動によるキャッシュ・フロー	△179,679	3,038,873
現金及び現金同等物に係る換算差額	△2,602	△84
現金及び現金同等物の増減額（△は減少）	385,323	556,076
現金及び現金同等物の期首残高	4,368,673	4,849,729
現金及び現金同等物の中間期末残高	4,753,997	5,405,806

（４）中間連結財務諸表に関する注記事項

（継続企業の前提に関する注記）

該当事項はありません。

（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記）

当社は、2026年７月16日開催の取締役会に基づき、譲渡制限付株式として524,400株の自己株式処分を行っております。また、2026年８月25日開催の取締役会決議に基づき、当中間連結会計期間に自己株式455,900株の取得を行っております。これらを要因として、当中間連結会計期間において、自己株式が59,878千円増加しております。これらにより、当中間連結会計期間末において、自己株式が305,262千円となっております。

（会計方針の変更に関する注記）

「金融商品会計に関する実務指針」（移管指針第９号　2025年３月11日。以下「改正金融商品実務指針」という。）を当中間連結会計期間の期首から適用しております。これにより、改正金融商品実務指針の第132-2項を適用し、同項に規定する要件を満たす組合等の構成資産に含まれる市場価格のない株式（当社の子会社株式及び関連会社株式を除く。）について時価をもって評価し、組合等への出資の会計処理の基礎としております。

なお、これによる中間連結財務諸表への影響はありません。

（表示方法の変更に関する注記）

（連結キャッシュ・フロー計算書関係）

「棚卸資産の増減額（△は増加）」、「未払金の増減額（△は減少）」及び「預り金の増減額（△は減少）」は、従来、連結キャッシュ・フロー計算書上、「営業活動によるキャッシュ・フロー」の「その他」に含めて表示しておりましたが、重要性が増したため、当中間連結会計期間より独立掲記しております。

この結果、前中間連結会計期間の連結キャッシュ・フロー計算書において「その他」に含めて表示していた72,895千円は、「棚卸資産の増減額（△は増加）」△10千円、「未払金の増減額（△は減少）」71,557千円及び「預り金の増減額（△は減少）」1,396千円として組み替えております。

（企業結合等に関する注記）

取得による企業結合

１．企業結合の概要

(1) 被取得企業の名称及びその事業の内容

被取得企業の名称　　株式会社Miris（旧株式会社バチェラーデート）

事業の内容　　マッチングアプリ「バチェラーデート」等の開発・運営

(2) 企業結合を行った主な理由

株式会社Miris（旧株式会社バチェラーデート）は、2021年に設立され、審査制マッチングサービス「バチェラーデート」を運営してまいりました。同社は、デート相手の提案・調整を行い、従来の「いいね」「メッセージ」等のプロセスを原則不要とする“デートから始まる”マッチング体験を提供することで着実にユーザー数を拡大させております。同社の更なる事業拡大に必要なマーケティングやサービス運営に関する知見やノウハウ、及びエンジニアリソースについて、当社が長年培ってきたものを投下することで、同社の成長を加速させることができると考えております。　また、本株式取得を通じて新たな収益基盤を獲得することは、当社グループの中長期的な企業価値向上に資すると判断し、本株式取得を決定いたしました。

(3) 企業結合日

2026年５月１日

(4) 企業結合の法的形式

現金を対価とする株式取得

(5) 結合後企業の名称

株式会社Miris

(6) 取得した議決権比率

企業結合直前に所有していた議決権比率	―
企業結合日に追加取得した議決権比率	100%
取得後の議決権比率	100%

(7) 取得企業を決定するに至った主な根拠

当社が現金を対価として株式を取得したことによるものであります。

２．中間連結損益計算書に含まれる被取得企業の業績の期間

2026年５月１日から2026年９月30日まで

３．被取得企業の取得原価及び対価の種類ごとの内訳

取得の対価　現金	3,480,000千円
取得原価	3,480,000千円

４．被取得企業の取得原価と取得するに至った取引ごとの取得原価の合計額との差額

該当事項はありません。

５．発生したのれんの金額、発生原因、償却方法及び償却期間

(1) 発生したのれんの金額

2,889,690千円

なお、上記の金額は、当中間連結会計期間末において、取得原価の配分が完了していないため、暫定的に算定された金額です。

(2) 発生原因

主として株式会社Miris（旧株式会社バチェラーデート）がマッチングサービス事業の持続的な成長によって期待される超過収益力であります。

(3) 償却方法及び償却期間

10年間にわたる均等償却

（セグメント情報等の注記）

【セグメント情報】

前中間連結会計期間（自　2025年４月１日　至　2025年９月30日）

１．報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：千円）

	報告セグメント			その他（注）３	合計	調整額（注）４	中間連結損益計算書計上額（注）５
	ライブ配信事業（注）１	マッチングサービス事業（注）２	計				
売上高							
外部顧客への売上高	7,115,432	－	7,115,432	243,868	7,359,301	－	7,359,301
セグメント間の内部売上高又は振替高	－	－	－	596,774	596,774	△596,774	－
計	7,115,432	－	7,115,432	840,643	7,956,076	△596,774	7,359,301
セグメント利益	957,120	－	957,120	112,856	1,069,976	5,352	1,075,328

（注）１．「ライブ配信事業」とは、株式会社A Inc.が運営するライブ配信サービス「ふわっち」を指します。

２．「マッチングサービス事業」とは、株式会社Mirisが運営するマッチングサービスを指します。

３．「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであります。

４．セグメント利益の調整額には、主に、各報告セグメントに配分できない企業結合に要した取得関連費用及びのれんの償却額が含まれております。

５．セグメント利益は、中間連結損益計算書の営業利益と一致しております。

当中間連結会計期間（自　2026年４月１日　至　2026年９月30日）

１．報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：千円）

	報告セグメント			その他（注）３	合計	調整額（注）４	中間連結損益計算書計上額（注）５
	ライブ配信事業（注）１	マッチングサービス事業（注）２	計				
売上高							
外部顧客への売上高	7,079,805	1,019,225	8,099,031	526,833	8,625,864	－	8,625,864
セグメント間の内部売上高又は振替高	－	－	－	591,420	591,420	△591,420	－
計	7,079,805	1,019,225	8,099,031	1,118,254	9,217,285	△591,420	8,625,864
セグメント利益又は損失(△)	1,040,543	239,043	1,279,587	△134,967	1,144,619	△116,801	1,027,818

（注）１．「ライブ配信事業」とは、株式会社A Inc.が運営するライブ配信サービス「ふわっち」を指します。

２．「マッチングサービス事業」とは、株式会社Mirisが運営するマッチングサービスを指します。

３．「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであります。

４．セグメント利益又は損失(△)の調整額には、主に、各報告セグメントに配分できない企業結合に要した取得関連費用及びのれんの償却額が含まれております。

５．セグメント利益又は損失(△)は、中間連結損益計算書の営業利益と一致しております。

２．報告セグメントごとの資産に関する情報

当中間連結会計期間において、株式会社Miris（旧株式会社バチェラーデート）株式を取得し、連結の範囲に含めたことにより、前連結会計年度の末日に比べ、「マッチングサービス事業」のセグメント資産が1,016,039千円増加しております。

３．報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

（のれんの金額の重要な変動）

当中間連結会計期間において、株式会社Miris（旧株式会社バチェラーデート）の全株式を取得し、連結の範囲に含めております。これにより、当中間連結会計期間において、「マッチングサービス事業」に係るのれんが2,889,690千円発生しております。

なお、上記の金額は、当中間連結会計期間末において、取得原価の配分が完了していないため、暫定的に算定された金額です。

４．報告セグメントの変更等に関する事項

当中間連結会計期間より、株式会社Miris（旧株式会社バチェラーデート）株式を取得し連結子会社となったことに伴い、事業セグメントの区分方法を見直し、報告セグメントを従来の「一般消費者向け関連事業」「自治体向け・企業向け関連事業」から、「ライブ配信事業」「マッチングサービス事業」に変更しております。

なお、前中間連結会計期間のセグメント情報については、変更後の区分方法により作成したものを記載しております。